【中学校 社会科】の自ら学習を調整する活動に重点を置いた授業実践

日 時 令和6年8月30日(金)~9月10日(火)

対 象 花巻市立花巻中学校 第3学年 1クラス

授業者 総合教育センター 研修指導主事 福井 正人

1 単元名

公民 第1章 現代社会と私たち 第3節 現代社会の見方や考え方

2 単元の目標					
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等			
・現代社会の見方・考え方の基礎	・社会生活における物事の決定の	・現代社会に見られる課題の解決			
となる枠組みとして、対立と合	仕方、契約を通した個人と社会と	を視野に主体的に社会に関わろ			
意、効率と公正などについて理解	の関係、きまりの役割について多	うとする態度を養う。			
する。	面的・多角的に考察し、表現する。				
・人間は本来社会的存在であるこ					
とを基に、個人の尊厳と両性の本					
質的平等、契約の重要性やそれを					
守ることの意義及び個人の責任					
について理解する。					

3 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代社会の見方・考え方の基礎	①社会生活における物事の決定	①現代社会に見られる課題の解
となる枠組みとして、対立と合	の仕方、契約を通した個人と社会	決を視野に主体的に社会に関わ
意、効率と公正などについて理解	との関係、きまりの役割について	ろうとしている。
している。	多面的・多角的に考察し、表現し	
②人間は本来社会的存在である	ている。	
ことを基に、個人の尊厳と両性の		
本質的平等、契約の重要性やそれ		
を守ることの意義及び個人の責		
任について理解している。		

4 自ら学習を調整する活動を促す学習指導

視点1「学習の見通し」●一枚ポートフォリオによる学習計画の共有と獲得した視点の可視化

A3判一枚のポートフォリオを作成し、1時間毎のまとめを記録していく。ポートフォリオには、単元のまとめと振り返りの評価規準をルーブリックで示し、自己調整を図りながら学習に取り組めるようにする。単元の中心概念に至るためのキーワードとした「よりよい決定をするために必要な視点」への素朴な認識を「予想」という形で残し、問題解決の過程で学んだ概念を「予想に加わった視点」として可視化していくことで自己の学びの成果を肯定的に捉えられるようにする。

視点2「学習課題を解決するための学習活動」●パフォーマンス課題の設定による学習の複線化

単元で身に付けた「よりよい決定の仕方の視点」を使って問題解決に取り組む場面を設定する。「効率」、「手続きの公正さ」、「機会や結果の公正さ」の三つの視点で複線化して調べ、他の視点で調べたメンバーに説明する責任をもたせる。ロイロノートの共有ノート上で調べる過程を共有したり、選択できる資料に幅をもたせたりすることで目的の達成に向けた自己調整が図られるようにする。

視点3「学習の振り返り」●終末場面での学習全体を振り返る活動

第5時の後半では、一枚ポートフォリオを基に、単元全体の学習で理解したことを図化することにより、振り返る活動を取り入れる。一旦、図に表すことで、思考を整理し、言語化する際の助けとなるようにする。

5 単元の指導と評価の計画(全体 5 時間)						
時	学習活動	指導上の留意点	河 画	記録	評価規準・評価方法 ◇評価[]評価の観点 ◆生徒が自ら学びを調整する学習指導	
単元の	単元の学習問題:対立を合意に導くための、「よりよい決定をするために必要な視点」とは、どのようなものだろう。					
1	私たちは、意見が対立した ればよいだろう。	寺に、どのように解決をす				
	・花巻図書館新設の計画を知り、「どんな図書館を作るべきか」、「どこに図書館を作るべきか」考える。	・実際の基本方針に沿って、考えるよう指示する。検討のために生じる意見の違いも含めて、「対立」という枠組みで捉えていくことを確かめる。				
	・意見の対立が生まれる条件を確かめる。	・人間は、社会的存在で あるがゆえに、対立が 生じることを確かめ る。	主①			
	・単元の学習問題を立て、予想する。	・図書館について考えた際の理由を板書しておき、予想に生かせるようにする。)			
	・学習計画を立てる。	・単元計画は、一枚ポートフォリオの見するします。 とでるようにたる「よりをしてでる。 ・単元・大きでで変にした。 ・単元・大きででででででででででででででででででででででででででででででででででいる。 ・単い、大きでででででででででででででででででででででいまります。 ・単に、新図書は、大きでのででででいる。			する。[主体的に学習に取り組む態度] ◆単元の学習問題に対する予想という形で、「よりよい決定をするために必要な視点」に対する素朴な認識を表出できるようにする。一枚ポートフォリオで可視化することで、(概念)を認識できるようにする。	
2	対立から合意にいたる中で、 あるのだろう。					
	・身近にあるきまりについて 考える。・権利と義務の関わりを整理	・きまりによって生じる 義務や責任と守られ る権利の関係を確か め役割を表現すると いう見通しがもてる ようにする。 ・図で表現することで、				
	する。	「きまり」は、社会集団の中の全員に等しく義務や責任を課すことで、一人一人の権利を守る働きがあることを確かめる。	Į.			
	・具体の事例で確かめる。	・具体の事例に当てはめ て考えることで、実感 を伴って理解できる ようにする。 義務や責任を与えるこ	知 ②	0	◇まとめの記述から、「人間は本 来社会的存在であることを基 に、きまりの重要性やそれを 守ることの意義及び個人の責 任について理解しているか。」 を評価する。[知識・技能]	
	とで、お互いの権利を守る後				_ ⊂ 丌∭ ソ 幻。 [刈嘅 * 1又牝]	

5 単元の指導と評価の計画(全体 5 時間)					
時	学習活動	指導上の留意点	重	記	評価規準・評価方法
			点	録	◇評価[]評価の観点
					◆生徒が自ら学びを調整する学習指導
3	対立を合意に導くための、 に必要な視点」とは、どのよ ・具体的な事例をもとに、合 意を導き出すためには、効 ・意を公正の考える。 ・教科書で効率と公正の視点 について調べる。 よりよい決定の仕方には、要である。効率とは、金や物 についるかという視点である。対点である。対応に参加しているかという視点では、なっているかという視点では、なっているかという視点で	うなものだろう。 ・体育館使用の決めよりのよりのよいであるをでででででででででででででできる。でででででででででいる。でいるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	知①	0	◇まとめの記述から、「対立を合意に導く考え方の枠組みとして、効率と公正の考え方を理解しているか。」を評価する。 [知識・技能]
4.55	「よりよい決定をするため」 決定の仕方にどのように生か。 ・花巻図書館新設に向けての強力に、「効果の仕方をの公正」が、公正」が、会れぞれるかを分別である。 ・調べたことを交流し、当まり良い決定のためにある。 ・「より良い決定のためにある。 ・「より良い決定のためにある。 ・「より良い力を表える。		思① 主①		◆ 「でのに資参う」流けい現価 準るうら 記でさ己正う体 を は を で よ の の を で よ の の を で よ の の を で よ の の を え き れ な か と に え を 現 し と と る し か の の と 分 す 観 し と と る し か か の で の に 資 参 う 流 け い 現 価 世 る う ら し 、 方 価 が な の の と 分 す 観 か ま え き え が 率 考 に の の と 分 す 観 か ま と に え を 現 ま ま を を え が 率 考 に の の と 分 す 観 か と し の る 察 の 手 り ら し ま か に か ら し か の の と 分 す 観 か と で よ ら と え が 率 考 ら し か ら か ら

生徒が自ら学びを調整する姿

視点1「学習の見通し」●一枚ポートフォリオによる学習計画の共有と獲得した視点の可視化

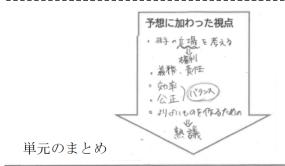
「バランス」というキーワードを見付け まとめに生かした例

記述例1は、抽出生徒1の一枚ポートフォ リオから、予想、予想に加わった視点、まと めを抜粋したものである。第1時に記述した 予想では、「よりよい決定をするためにどん な視点が必要か」という問いに対して、「他の 人のことも考えた視点」と記述していた。

予想に加わった視点の記述に注目すると、 立場の下に矢印が書き加えられ「権利」と記 述されている。まとめの記述の前半には、「相 手の立場は、立場ではなく相手のことについ ていっていることを学び」と記述されている ことから、学習の途中で、「他の人のことも考 えた視点 | が、「相手の権利を考える視点 | へ と概念化されたことが読み取れる。

単元の学習問題への予想

自分の立場だけではなく他の人のことも考えた視点。 4自分のことばもりだと納得できず合意できないから。



- 祖手の立場は、立場ではなく相手の推利のことについている いろことを学が相手の権利を考えた視点が大切という考えい凌えることができた。
- 。 効率と公正については、パランスをとわことが以来だらいうことを知ま 公正には手続きの公正(話し合う過程に出人なが参加にはか)や 機会や結果(機会や結果が下当ではないかがあることを知った。

記述例1 抽出生徒1の一枚ポートフォリオより抜粋

また、予想に加わった視点に目を戻すと、効率、公正の右側にバランスという記述がなされ、丸印で囲 まれている。この記述は、他の生徒には見られなかった記述で、第3時から第5時までの対話を通して加 わった、この生徒のオリジナルのキーワードである。このバランスというキーワードは、まとめの後半の 記述にも生かされ、この生徒の記述の個性を形作る重要な要素となっている。

抽出生徒2

まとめへの書き込みを生かして考えを自己調整した例

単元の学習問題への予想

・「相手の意見の良い所を見っける視点」 →相手の意見の良い所を見つけることができれば自分の意見の良い所を合わせて考えられ、 より良く、そして相方が合意できる意見を挙げることもできると思うから。

第2時 ② 決まりの役割

決まりをつくることで、義務、責任せ権利に治って 全員が納得した上で行動できるので、対立が生まれ にくくなる効果かある。

(ナレ) > なぜ、イカナまりが、あるのかしを共有できなりと、反然 ラ対立 ,なしもうことしあると思う。 の全量納得的失為…公正正か特に大切!

予想に加わった視点 相手の権利を考える視点 効率を取める視点 ・公正さを取める視点 17 手続き 機をや紅み

第3時 ③义要字視点

· 公正之外大切 《Point》何下的 tt重要。 対立を防ぐ、 ·交か率と公正さと局立ませられる視点、大切(必要) 与全色が納得しやすぐ好。

私の最初の予想は「メリットを見つける」とも言い模型れるので、「効率」の視点にと いうことに気付いた。

「如率」の良さはもちろん、千穂で機会・結果の公正さも両立コせれると、 皆が合意しやすくなると思うので、「より良い決定をするために必要な強点は、 『効率も公正さに十分に配渡でおる 徳ん なと思った。

記述例2 抽出生徒2の一枚ポートフォリオ

記述例 2 は、抽出生徒 2 の一枚ポートフォリオの記述である。第 1 時に記述した予想では、「よりよい決定をするためにどんな視点が必要か」という問いに対して、「相手の意見の良い所を見つける視点」と記述していた。この生徒の予想に加わった視点に注目すると、「相手の権利を考える視点」、「効率を求める視点」等、各時間の学習で習得した視点を淡々と記述している。一方、第 2 時のまとめに注目すると、前段で「決まりの役割」についてのまとめを記述した後に、「しかし…→なぜきまりがあるのかを共有できないと反感→対立となってしまうこともあると思う。→全員納得…公正さが特に大切!!」と記述し、単元の学習問題である「対立を合意に導くためのより良い決定をするために必要な視点とはどのようなものだろう。」という問いに対しての考えの調整が図られていることが読み取れる。これは、第 3 時のまとめにも見られ、「公正さが大切 Point 何においても重要。対立を防ぐ」と記述されている。

単元のまとめの記述に目を移すと、「効率の良さはもちろん、手続きや機会、結果の<u>公正さ</u>も両立させられると…」と記述されており、第2時、第3時での自ら学習を調整したことを生かして「よりよい決定をするために必要な視点」の概念化が図られたことが分かる。

第4時 獲得した視点を生かして課題を追究する場面での一枚ポートフォリオの活用

図1は、第4時の個別の課題追究場面での学習の様子である。この時間は、既習の視点が、実際の決定場面にどのように生かされているのかを個別に追究する場面である。タブレットの中に格納された、電子データを使って追究しながらも、常に手元に一枚ポートフォリオを置いて、既習の視点を確認したり、友達との対話による気付きを記録したりする様子が見られた。学習の全体像を可視化したことによるメリットが生かされた場面である。



図1 第4時の学習の様子

視点2「学習課題を解決するための学習活動」●パフォーマンス課題の設定による学習の複線化

第4時 獲得した視点を生かして課題を追究する場面

第3時までに獲得した、「効率」の視点、「手続きの公正さ」の視点、「結果や機会の公正さ」の視点が実際の決定場面に生かされているかどうか確かめ、適切な資料を基に資料を選択してまとめるパフォーマンス課題を設定した。図2のように、グループ内で三つの視点を分担して調べ、追究内容の複線化を図ることで、一人一人の学習に責任を与え、より自ら学習を調整する必要感が生まれるようにした。

図3のように、6種類の資料を教師が準備し、自分の視点を 説明するための資料の解釈という一番重要な判断に意識が向 かう環境構成とした。学習内容を複線化する学び方は初めてだ



図3 提示した資料



で調べ方や協働の度合いは自分達で調整してよいことを伝えた。

図4は、第3時までのノートを振り返りながら、視点を確かめつつ、課題に取り組んでいる生徒の様子である。個人内で獲得した知識の使い方を調整しながら、学びを深めた例と捉える。図5は、生徒同士での対話により、資料の解釈を確かめている様子である。資料選択の段階で、自分の視点を説明するための資料として、その選択の仕方が妥当であるか検討することにより、その後の活動に安心して取り組むことができたと分析する。図6は、教師を交えた話合いにより、考えの修正を図っている場面である。資料選択に迷う生徒A(左から2番目)に対し、教師が、「周りのメンバーの意見



図4 既習を生かして学ぶ生徒

を聞いてみようよ。」と働きかけ、周りの生徒同士で自分の解釈の仕方を説明し合う関わりが生まれた。その後、説明を納得して受け入れたAは、選び直した資料を使って、学習を進めることができた。



図 5 資料の解釈の仕方を話し合う生徒



図6 教師を交えて話し合う生徒

第5時 異なる視点で調べた者同士で交流する場面

第5時は、元のグループに戻り、三 つの異なる視点で調べた者同士で結 果を交流した。視点が違うのに、同じ 資料を根拠にしていた場合は、その妥 当性を話し合うように指示した。ま た、資料や説明を修正した場合は、資 料に書き加え、学びの経過を残すよう 指示した。

図7は、話し合いにより、「機会の公正さ」を説明するための資料として、根拠となる資料を加えた例である。右側で述べた結論を説明するためには、最初に選択した資料だけでは、不十分であるという解釈のもと、上から選れを加えたことが分かる。このような方法で、自ら学習を調整することをメタ認知する。 大選を視覚化して残すことは、生徒が知するを視覚化して残すことをメタ認知する。 生徒の思考過程を知ることで、指導を支援に生かすヒントとなり得るもの

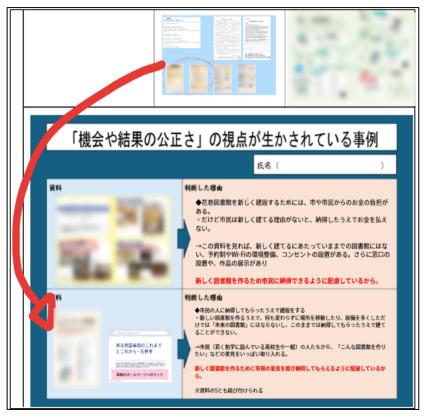


図7 対話により資料を修正した生徒のシート

であると考える。

全体の様子に目を向けると、9班中8班に、異なる視点で同じ資料を根拠としていた例が見られた。このことにより、図7のように説明の根拠となる資料を選び直したり、教科書やノートを振り返って既習内容を確かめながら解釈の仕方を話し合ったりする関わりが自然と教室中に生まれ、予定の時刻を過ぎても対話が止まらない状況となった。今回の環境構成で大切にしたことの一つは「明らかな正解をつくらない。」ということである。そのために提示する資料の数や種類を調整しながら、予想される解釈の仕方を吟味した。このように資料の数や種類を調整することで、生徒の意識が課題解決に向かうことを目指すアプローチの仕方は、他の単元でも有効であると考えるので、今後検証を重ねていきたい。

視点3「学習の振り返り」●終末場面での学習全体を振り返る活動

第5時 学習全体を振り返る場面

単元全体の学習を意識しながら振り 返りを行うことができるようにするために、対立と合意、効率と公正等、この 単元で学習した、概念を図化したもの と、単元の最初に出された予想を箇条書 きにしたものを提示し、自分達の予想が 単元の学習を通して、どのように変化し たのかを視覚化する活動を取り入れた (図8)。

4時間目までの学習においても、予想と比較することを大切にしてきたので、ほぼ、どの生徒も同じような図を完成させた。その後、一枚ポートフォリオに文章化して記述するよう指示したが、ほぼ全ての生徒が、最初の予想が、「単元全体の学習を通してどのように変化したのか」という視点からまとめを記述することができていた。

ただし、一枚ポートフォリオにまとめた時点で、単元の学びを通しての自己調整の様子が表出していた生徒も多かったことから、この手立てがなくても、同じような成果が得られたかもしれない。

【最初の予想】

- ① 相手の立場を考える視点
- ② 全員の意見を聞き、メリットの多い方を選ぶ視点
- ③メリットが一番多くなるように決める視点
- ④ 合理的な根拠をもつ視点
- ⑤ 第3者の立場から見る視点
- ⑥ 結果を予想しながら考える視点
- ③ 多様性を重視する視点
- 8 より多くの意見をもとに決める視点

図8 提示したワークシート